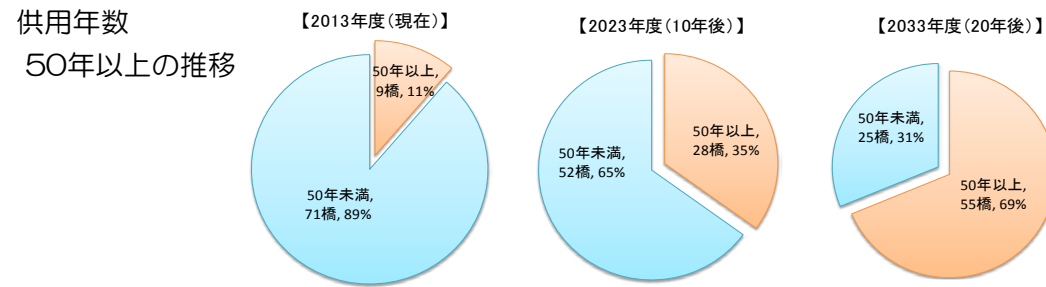
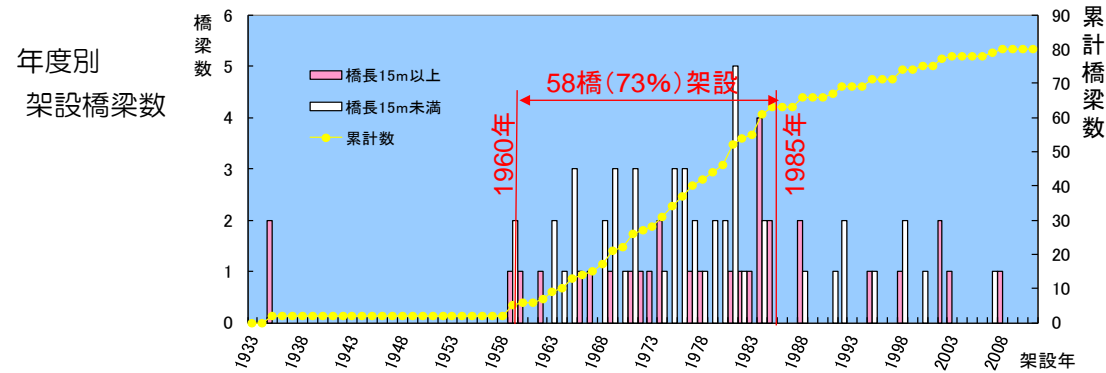


九戸村橋梁長寿命化修繕計画策定資料

1. 長寿命化修繕計画の目的

【背景】

九戸村が管理する橋梁は、高度経済成長期の影響により1960～1985年に約7割にあたる多くの橋梁が架設されました。今後、これら橋梁の高齢化が一斉に進みます。2013年現在、供用年数が50年以上の橋梁数は9橋(11%)に対し、20年後の2033年度には55橋(69%)に増大し全体の7割を占めます。



従来の対症療法型管理を継続した場合、維持管理コストが高くなり、適切な維持管理が困難になる恐れがあります。そこで定期点検により橋梁の健全度を把握を行い、予防保全型管理へ転換を図ることで下記に示す効果が期待できる。

- ① 橋梁の耐用年数延長（長寿命化）が期待できる。
- ② 修繕・架け替え費用のトータルコスト縮減および予算の平準化が可能となる。
- ③ 道路の安全性・信頼性の確保が可能となる。

2. 対象橋梁

長寿命化修繕計画では全管理橋梁80橋を対象とする。

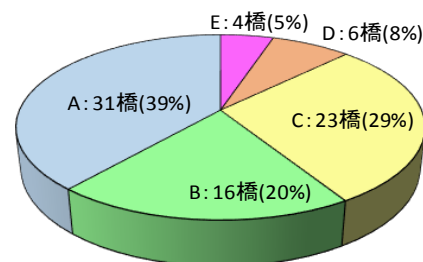
	1級村道	2級村道	その他村道	合計
全管理橋梁数				
橋長15m以上の橋梁	7 橋	7 橋	18 橋	32 橋
橋長15m未満の橋梁	8 橋	17 橋	23 橋	48 橋
今回計画策定橋梁数	15 橋	24 橋	41 橋	80 橋

3. 健全度の把握

5年に1回の点検で健全度の把握を実施する。

現在の点検結果

- E: 危険な状態
- D: やや危険な状態
- C: 補修が必要な状態
- B: 小規模な損傷
- A: 健全



主桁の鉄筋露出



下部工基礎の洗掘

4. 維持管理に関する基本方針

1) 日常パトロールの実施

橋梁を良好な状態に保つため、日常的な維持管理として日常パトロールを実施する。

・橋梁長寿命化にむけた維持補修の実施

日常的な維持管理の継続は橋梁の長寿命化に繋がることから、日常の損傷確認時や住民からの情報収集時に簡易な補修や清掃を実施する。(例: 舗装の補修や排水柵の清掃等)

2) 定期パトロールの実施

橋梁点検結果から構造安全性に影響する損傷や第三者被害が懸念される損傷は定期パトロールを年2回実施し交通の安全に努める。

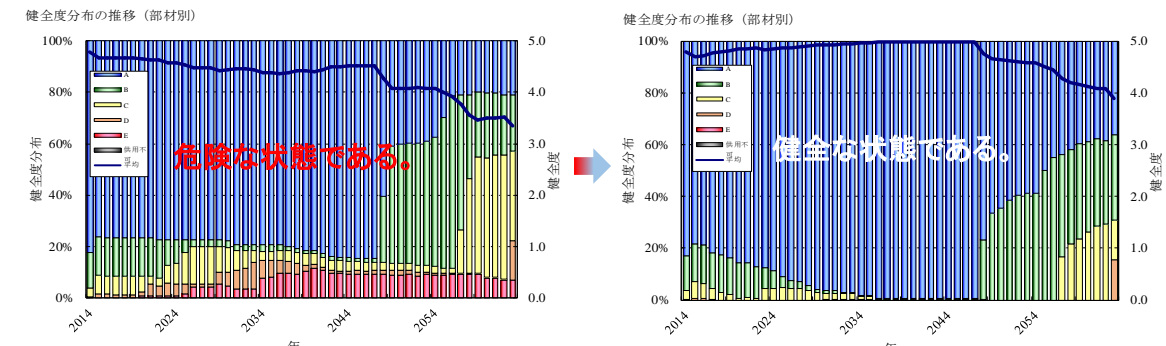
3) 異常時パトロールの実施

地震、台風、大雨などの自然災害時及び異常気象の発生時に、交通安全性の確保、第三者被害の防止及び構造安全性の確保を目的として異常時点検を実施する。

5. 長寿命化修繕計画による効果

1) 健全度の向上

橋梁点検を実施し、現状を把握しながら適切な修繕工事を計画的に実施することで、橋梁の安全性が確保され、道路の信頼性が確保できる。

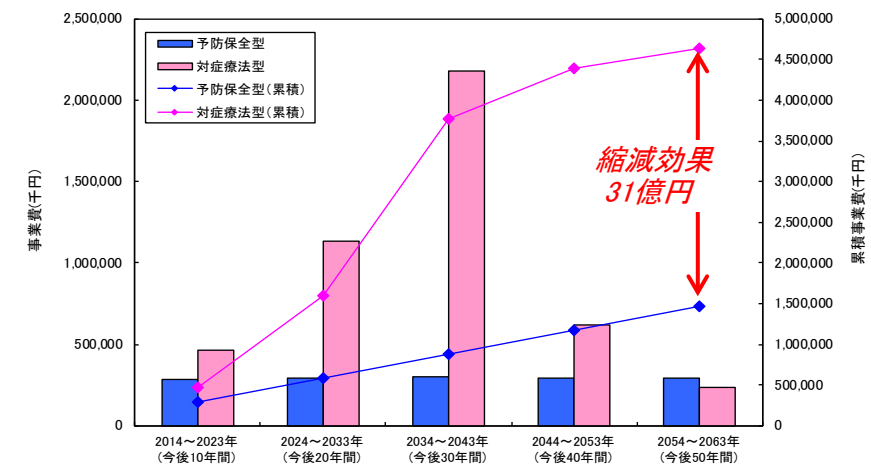


2) 予算の平準化

修繕に係わる費用を予測して、投資額を平準化した修繕計画を策定することで、厳しい予算制約の中で計画的な修繕が可能となる。

3) コストの縮減

長寿命化修繕計画策定により、従来の対症療法的な修繕から、予防保全的な修繕を実施することで、50年間累計予算では約31億円のコスト縮減が見込まれる。



50年間シミュレーションのコスト縮減効果